



☀️ な し

食品団地	5月度の商況は昨年と比べやや増加。県内外ともに人の移動効果と思われる。収益面での食品業界は、原材料・エネルギー・資材・人件費の上昇を販売価格に転換すべく、徐々に値上げが進んでいる状況で、先行きは楽観できない昨今である。
テントシート	原材料の高騰分の販売価格へのスムーズな転嫁が厳しい状況が続くと思われる。イベント関連事業については、コロナ禍前に回復したように思う。
木製品素材生産	入荷量は例年並みとなっている状況であるが、これから梅雨時期となってくるため出材量が減少してくる。また、虫害も少し始まってきていることが心配されるところ。丸太価格については、ヒノキ製品の動きが悪く、丸太価格も値下がりしている状況であり、今後の見通しもあまり期待できない。
建具	個人住宅の仕事は少ない。ホテル改修工事の仕事が出てきている。
製紙(家庭紙)	紙製品全体では、昨年同月比で売上金額及び販売量は下回っている。しかし、そのなかでも各種紙の販売金額・生産量が持ち直しつつある。また、衛生用紙のティッシュペーパー及びトイレトペーパーも、前年と同じ水準で推移している。
製紙(手すき和紙)	売上が少しずつ持ち直しているが、コロナ禍前の状態にはほど遠い状況。原材料などの高騰がまだまだ収まらず、円安もあり、なかなか良い状態には戻りそうにない。
コンクリート製品	対前年同月比141.4%。
刃物製造	今月は価格改定前の駆け込み注文の品が上がり出荷したので、売上を伸ばすことができた。値上げも昔のような難しさは無く、お得意先の多くはご理解して頂いているようである。ただ、旧価格にて受注している商品の納品が終わればその後どのようなようになるか、先が見えない状況である。
機械団地	団地内は、一部に低迷する事業所があるものの、徐々に業況を回復しつつ、横ばいの状況を維持している。小規模事業所においては、原材料価格の上昇や人手不足が主な経営課題である
船舶製造	受注・売上ともに順調。人手不足感は続いている。
珊瑚装飾品製造	5月度の取引額は前年同月比68%となった。
青果卸売	入荷状況について、野菜は数量:92%・キロ単価:118%、果実は数量:89%・キロ単価:105%。4月に引き続き入荷数量の大幅な減少があり、キロ単価の上昇で売上実績が昨年を超えている状況が続いており、収益面では厳しい状況が推測される。
生鮮魚介卸売	仕入価格が上がっている。運賃・氷代・箱代等も値上がりしている。大変であるが、カツオは入荷している。
各種小売(土佐市)	GWのイベントはたくさんの客で賑わったが、小売店の売上増加にはなかなか結び付かない。

中古自動車小売	先月同様、市場相場の高騰により低年式車両価格も上昇傾向にあり、注文件数は増加しているもの思うような金額では仕入れが厳しく、手数料等々の仕入れにかかる経費の増加で車種によっては収益が上がらない。
商店街(高知市)	駐車場状況について、利用台数は前年の97.0%(▲890台)、料金収入は前年の98.8%(▲118千円)。5月のクルーズ船の入港は4隻(前年4隻)と前年と同じであったが、免税売上については昨対95.3%増加(高知大丸含む商店街)となった。GWに開催した「こうち春花まつり2024」は3日間とも天気に恵まれ来場者も多く商店街全体に賑わいがあった。
商店街(四万十市)	飲食店に限らず人手不足の声が多く聞こえてくる。四万十ウルトラマラソンのボランティアの人員集めに苦勞している。
旅行業	組合クーポン前年同月対比:約93%(売上出揃わず)、全旅クーポン合算売上対比:126%。総売上は回復しているが、組合クーポン取引増加は依然として厳しい。
IT事業	先月と比べて売上状況に大きな変化は見られないようだ。大規模案件などの動きはあまり活発ではないが、売上自体は堅調に推移していると感じている。また、AIを搭載したPCが年内に発売されるなど、新しい技術への関心の高まりに期待したい。
クリーニング	価格改定値上げにより売上高は微増している。一方、点数減、エネルギー価格や材料費の値上げは続いており、人件費増加に加え、人手不足も重なり、繁忙期でも業況は良いとはいえない。また、インボイス制度や労働安全衛生法施行令等の一部改正など、置かれた環境は厳しくなっている。
電気工事	組合員の施工する電力引込線工事は、前年同月比159.5%となった。高知中央地区が284%、須崎地区が310%と大幅に伸びた。
タクシー	実働1日1車当りの前年同月比運送収入:105.7%、輸送回数:99%、実働率:50.8%。日本版ライドシェアは、都市・観光地で活躍している。最近、一般の者が有償で顧客を送迎する「ライドシェア新法」を導入しようとしているが、タクシー会社はこれを全力で阻止している。安心・安全が守れないばかりか、責任の所在が分からない。タクシードライバーの獲得に必死である。

酒類製造	GWの人出にも期待したほどの売上には繋がらなかった。輸出はやや回復傾向ではある。
製材	荷動きは鈍く、プレカット需要の減少傾向は継続。
印刷	久しぶりに売上増加、操業度上昇と良い結果となった。県内・県外需要ともに回復傾向か? 収益状況が厳しいなか、多少なりとも希望が持てる状況が継続することを望みたい。
生コンクリート製造	5月度の全組合員の出荷量は、対前年比 77.5%であった。4月度よりさらに減少傾向が続いている。年度明け以降の公共工事の減少が要因と考えられる。地域的には、中部を除くすべての地区で対前年比出荷量が減少している。
卸団地	「昨年より売上増加となっているが、イメージを超えるものではなく、もう少し伸びると思っていた。」という感想を多く耳にしたGWであった。景気回復は感じられない。
電気機械器具小売	5月度は全商品平均で前年比96.4%、省エネタイプエコキュートは前年比102%、大画面テレビは前年比95.8%。リフォームは金額で98.3%。
ガソリンスタンド	5月の原油価格は下がり気味だが、補助金も下がり実質若干の値上がりとなるが市場は動かず、高知県は安定している。補助金は5月末で25.7円/Lとなっている。世界的に見てもこの補助金がでている国は珍しく、多くの国ではガソリン価格は200円を超えており、中には300円超えの国もある。
商店街(安芸市)	物価高が続き、消費者の購買意欲の低下を感じる。電気代等の値上げでますます経営が厳しい状況にある。
旅館・ホテル	5月以降の動きが鈍く低調である。人員不足が深刻であり、フル運営が困難。また、新規参入業者による影響も今後懸念される。
飲食店	GWまでは順調だった集客が月後半になるにつれ減少し、売上高は前年同月を僅かではあるが下回った。前年度同月に比べ、光熱費や仕入れ価格は高騰し人件費も上昇している。それに対して業界の価格転嫁は十分ではない。コロナ禍以前の売上比較は約8~9割。売上高の回復は頭打ち状態が続き、ある意味安定していたが当月は前年同月を下回った。更なる悪化が懸念される。
一般土木建築工事	令和6年5月分の県下の生コンクリート総出荷量は、前月比100.3%、前年同月比77.5%。そのうち、共同販売事業に係る出荷量は14989.05m ³ と全体の32.5%と低調。災害復旧工事、防災・減災対策工事、高速道路の延伸工事などの大型工事については継続しているが、高速道路の整備以外に大型工事が見込めない状況。生コンクリート販売単価については、主に賃金アップの原資としてm ³ 当たり1,000円の値上げを5月契約分より実施。また、小型車搬送についても値上げ実施。値上げ分の積算単価反映は、秋までを目論んでいるが流動的。また、高知市の組合再生については進行中であるが、具体的な進展は未だ見えない状況。
一般貨物自動車運送	組合事業実績は前年を若干下回った。2024年問題の影響と思われるが、今後更に影響が大きくなるかは不透明といえる。燃料価格は数十銭の下げとなったが、政府補助金が目減りし、為替も不安定な状態が続いていることから6月以降も更なる高騰が懸念される。